2013年(平成25年)2月5日 火曜日
朝日新聞 (夕刊)

延命医療「代わりに判断」47%

家族で議論 半数

厚労省研究班調査

終末期に延命医療をするかどうか。本人に代わって判断してほしいと家族から事前に頼まれて「引き受ける」のは半数近くにとどまることが、厚生労働省研究班の調査でわかった。「引き受けない」も1割以上いた。終末期の医療について本人が意思を残していても、家族の協力が得られずに思い通りになりにくい実態が浮かび上がった。

調査は、2011年10月から12年1月にかけ、全国の男女2千人にアンケートし、48%から回答を得た。延命医療について家族と話し合ったことがあるかの問いに、「十分に話し合っている」のは5%。「話し合ったことがある」は45%で、「全く話し合ったことがない」が48%いた。

自分で判断できなくなった時に備え、事前に判断してもらう人を決めておくことには73%が「賛成」した。しかし、自分が判断を頼まれたらどうするかの問いには「引き受ける」は47%にとどまった。「わからない」39%、「引き受けない」12%だった。

(辻外記子)